

2018年9月22日 日本学術会議主催学術フォーラム 「軍事的安全保障研究をめぐる現状と課題 ―日本学術会議アンケート結果をふまえて―

「安全保障と学術」 日本天文学会の取り組み

日本天文学会会長 柴田一成(京都大学)
同 副会長 土居 守(東京大学)

これまでの経緯のまとめ

- 防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度(2015～)」
- 日本学術会議の「軍事的安全保障研究に関する声明」(2017年3月24日)
- 2017年6月3日 日本天文学会代議員総会で、代議員・学術会議会員の須藤靖さんの講演
- 2017年11月号～2018年3月号 天文月報に連載記事(6名)
<http://www.asj.or.jp/anzen-tenmon/>
- 2018年3月天文学会春季年会、特別セッション「安全保障と天文学」で初めての議論(今後も議論を継続することに)
- 国内外のメディアからも取り上げられた
(毎日新聞、読売新聞、Nature)
- 2018年9月天文学会秋季年会、特別セッション「安全保障と天文学II」天文学会として声明を出す方向で議論をスタート
- セッション直後の記者会見には6社の記者出席(NHK全国ニュース、朝日新聞、神戸新聞で報道)

日本天文学会の皆さんへ

—安全保障と天文学シリーズの開始にあたって—

日本天文学会会長 柴田一成

2017年6月3日の日本天文学会代議員総会で、代議員であり、かつ日本学術会議会員の須藤靖さんより、安全保障と学術についての学術会議の声明とそこに至る議論に関する素晴らしい講演がありました。

日本天文学会会員、特に若手会員のみなさんに、ぜひこの問題について真剣に考えてほしい、というのが須藤さんの熱いメッセージでした。

それを受けて、理事会で議論した結果、まずは須藤さんに代議員総会での講演の内容を天文月報に寄稿していただき、それをスタートとして、何人かの方々にこの問題に関する記事を書いていただき、天文月報の連載記事としよう、ということになりました。

天文月報 シリーズ「安全保障と天文学」

2017年11月号～2018年3月号

日本天文学会の皆さんへ

—安全保障と天文学シリーズの開始にあたって—

柴田一成 Vol. 110, No. 11, 727

安全保障に関する日本学術会議声明

—若手天文学研究者に向けて—

須藤靖 Vol. 110, No. 11, 728

軍事と科学—ナチスドイツとJASON

池内了 Vol. 110, No. 12, 800

科学者・軍事研究・ヒューマニティ

小沼通二 Vol. 111, No. 01, 59

軍事研究に対する企業倫理と人の心のあり方

～企業人の視点から～

安井猛 Vol. 111, No. 02, 139

軍事的研究と基礎科学的研究の区分け

釜谷秀幸 Vol. 111, No. 03, 195

戦時下日本で、科学者はどのように

軍事研究に関わったか

河村豊 Vol. 111, No. 03, 202

天文学会春季年会 特別セッション 「安全保障と天文学」
プログラム 2018年3月14日 午後3時15分—5時15分

1. セッション趣旨説明

柴田 一成 (日本天文学会会長) 5分

2. 学術研究と安全保障を巡る議論の背景

須藤 靖 (日本学術会議連携会員 (前会員)) 15分+5分

3. コミュニティーの意見

海部 宣男 (日本学術会議連携会員、元第3部 (理学・工学)
部長) 15分+5分

中野 不二男 (京大宇宙総合学研究ユニット特任教授)
15分+5分

天文・天体物理若手の会会員 発表者 善光哲哉 (京大院生)
(若手代表者 野津湧太、谷本敦、一色翔平) 15分+5分

4. 総合討論 30分

5. 挨拶 山崎 典子 (日本学術会議会員) 5分

主催: 日本天文学会

共催: 日本学術会議

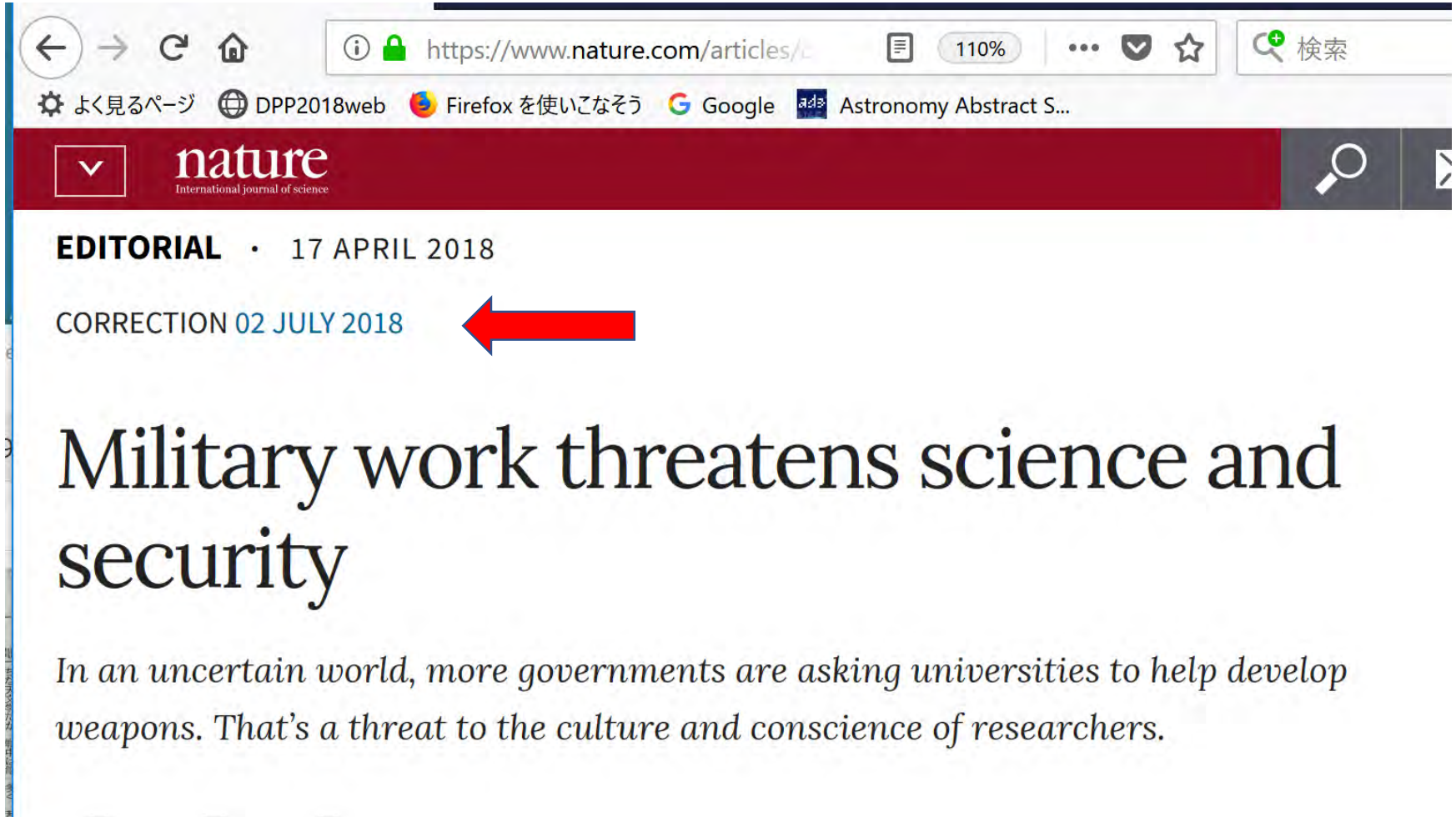
日本天文学会会員の皆さん

すでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、Nature 誌2018年4月9日号の editorials (vol.556, p.273)の”Military work threatens science”というタイトルの記事の中に以下の文章が掲載されました:

In Japan, universities are split over whether they should take funds from the defence ministry’s Acquisition, Technology and Logistics Agency. Last year, the advisory board to the nation’s cabinet – the Science Council of Japan – called for researchers to boycott the work, and for institutions to set up special committees to evaluate the ethics and propriety of military-related research projects. According to survey results released by the council earlier this month, 46 of the 135 universities polled have such a system in place. But 30 institutions have already allowed researchers to apply, and 41 have no intention of creating such a system. **And the nation’s astronomical society has voiced support for the fund.** It says that its young researchers believe that such work is acceptable if it falls within Japan’s policy of maintaining self-defence strategies.

この文章中の “… the nation’s astronomical society has voiced support for the fund.” という文は、事実誤認です。日本天文学会はこのような意見はどこにも表明していません。

Nature に対して抗議のメールを送ったところ、何回かのやりとりを経て、7月2日ようやく、修正、謝罪の文が掲載された
(2018年9月17日 確認)



The image is a screenshot of a web browser displaying a page from the journal Nature. The browser's address bar shows the URL <https://www.nature.com/articles/>. The page header features the Nature logo and the text "International journal of science". Below the header, the text "EDITORIAL · 17 APRIL 2018" is visible. A red arrow points to the text "CORRECTION 02 JULY 2018". The main title of the article is "Military work threatens science and security". Below the title, there is a paragraph of text: "In an uncertain world, more governments are asking universities to help develop weapons. That's a threat to the culture and conscience of researchers."

←

Military work threatens science and security

In an uncertain world, more governments are asking universities to help develop weapons. That's a threat to the culture and conscience of researchers.

修正後の謝罪記事（2018年9月17日 確認）



Correction 02 July 2018: Due to a misunderstanding from our reporter, the original version of this article incorrectly implied that the Astronomical Society of Japan formally advocates the use of funding from the country's military research fund to support academic researchers. While some members agree with that view, the society as a whole has no such position. On the contrary, it is discussing how basic science can be protected from the influence of military funds. We apologize.

天文学会秋季年会 特別セッション 「安全保障と天文学 II
声明作成に向けて」 プログラム 2018年9月19日(水)15-17時

1. はじめに:岡村 定矩 (日本学術会議 連携会員) 5分
2. セッション趣旨説明 柴田 一成 (日本天文学会会長) 5分
3. コミュニティーの意見:
谷本 敦 (京都大学 博士課程在学) 15+5分
戸谷 友則 (東京大学 教授) 15+5分
池内 了 (総合研究大学大学院・名古屋大学 名誉教授) 15+5分
4. 総合討論 45分
5. 挨拶:林 正彦 (日本学術会議 連携会員) 5分

主催:日本天文学会

共催:日本学術会議

特別セッション終了後、姫路駅前で18:00-19:00 に記者会見

今後の予定

- 理事会(9月19日)天文学会声明検討WGの立ち上げ
- 代議員総会(9月20日)

- 2018年10月、11月 WG
- 2018年12月22日 全体集会@京大
- 理事会(2019年1月12日)
- 代議員総会(2019年1月26日)
- 2019年 2月 WG

来年3月に声明公表を
目標に進めたい

- 2019年3月14日 年会初日に特別セッションを開催
- 理事会(2019年3月)
- 代議員総会(2019年3月)final endorsement

NHKテレビ全国ニュース 2018年9月19日夜11時 ニュース 9月20日 朝5時 おはよう日本

日本天文学会は19日に兵庫県で大会を開き、この中で軍事と科学研究の在り方をテーマに議論を行いました。

およそ180人が集まった会場からは「軍事研究は政府の介入があり、学問の自由を脅かしかねない」といった意見や「軍事研究が社会にプラスかマイナスか、簡単には答えが出ないのではないか」などといったさまざまな意見が出され、2時間にわたって活発な議論が交わされました。

日本天文学会では今後、アンケートを行うなどして学会の研究者の意見を集め、来年3月をめどに学会としての立場を表明することを確認しました。

(中略)

日本天文学会の柴田一成会長は「あらゆる科学技術は民生用にも軍事用にも使え、明確に仕分けることはできず、われわれはどうすればいいのか、議論し発信していく責任がある」と話していました。



軍事と研究 日本天文学会が来年3月めどに 立場表明へ

2018年9月19日 22時36分